

アサリの毒性検査について(概要)

千葉県漁業協同組合連合会

【目的】

アサリ内に混在するカイヤドリウミグモによる毒性が懸念されたため、カイヤドリウミグモを含むアサリを検体として、麻痺性および下痢性貝毒の試験を実施した。

なお、本調査は千葉県漁業協同組合連合会が(株)東京久栄に委託し、毒性試験については(株)東京久栄が(財)日本冷凍食品検査協会に再委託し、実施したものである。

【検査項目】

- ①麻痺性および下痢性貝毒の試験
- ②アサリ内に混在するカイヤドリウミグモの混在率、個体数

【方法】

①試料

千葉県牛込漁協産 アサリ 約 25kg (4月15日漁獲)

②麻痺性および下痢性貝毒の試験

実施日：平成19年4月20日

場所：日本冷凍食品検査協会仙台検査所

方法：食品衛生検査指針理化学編(厚生労働省監修：(社)日本食品衛生協会 2005年)の麻痺性貝毒(公定法)および下痢性貝毒(公定法)に従って実施した。方法の概要は次の通り。

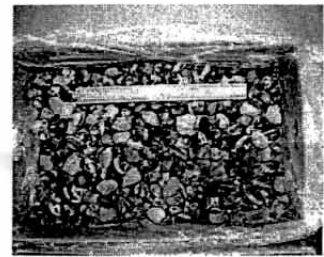
- a) カイヤドリウミグモを含むアサリのむき身200g以上を細切、ミンチ状にして試料とする。
- b) 試料に指定の薬品を加えて試験用抽出液を作製する。
- c) 指定されたマウスの腹腔内に試験用抽出液を注射して、毒量を(MU/g)を計算する。

③アサリ内に混在するカイヤドリウミグモの混在率、個体数

実施日：平成19年4月24日

場所：(株)東京久栄 環境事業部 環境科学部

方法：アサリ100個体を開殻し、アサリ内に混在するカイヤドリウミグモの有無と個体数を調べた。



(試験に供したアサリ)

【結果】

①麻痺性および下痢性貝毒の試験

カイヤドリウミグモを含むアサリから作製された試験用抽出物の毒量はともに検出限界値以下であり、安全性が確認された。(次ページの試験成績証明書を参照)

項目	検出限界値	試験結果	毒力の定義
麻痺性貝毒(MU/g)	2.0 MU/g	検出限界値 以下	体重 20g のマウスを 15 分で殺す量が 1MU
下痢性貝毒(MU/g)	0.05 MU/g	検出限界値 以下	体重 16・20g のマウスを 24 時間で殺す量が 1MU

* MU (マウスユニット)

②アサリ内に混在するカイヤドリウミグモの混在率、個体数

カイヤドリウミグモの混在が見られたアサリは100個体中25個体(混在率25%)であった。また、アサリ100個体中に混在していたカイヤドリウミグモは計73個体であった。

【試験成績証明書】



試験成績証明書

第 27G01492001 号

平成19年 4月24日



JAB
Lab Accreditation
RTL01300

依頼者 株式会社 東京久栄 殿
住所 埼玉県川口市芝6906-10

ISO/IEC 17025

平成19年 4月20日当協会に依頼された供試品について試験した結果、
下記のとおりであることを証明します。

厚生労働省登録検査機関
財団法人 日本冷凍食品検査協会
仙台検査所
仙台市宮城野区高砂一丁目24番18号
承認署名者 田村修

試験成績

供試品	アサリ (冷凍)
検体に 関する 付帯事項	-
検体 (数、番号)	1 検体
試験 成 績	麻痺性貝毒 MU/g < 2.0 下痢性貝毒 MU/g < 0.05
	検体受領日 平成19年4月20日 試験実施日 平成19年4月20日
	試験方法 「食品衛生検査指針 理化学編 厚生省生活衛生局監修 1991」による。
	以下余白

この試験成績は、依頼された試験品だけにに関するものです。
この試験成績の内容を転載等する場合は、本会の承認を得てください。
検体に関する付帯事項は、当協会が証明する事項ではありません。